

《名画の扉》

大川美術館企画展から

吹き抜けの空間に広がる色彩の世界。色の重なりやその躍動感に魅せられながら階段を下りていくと、八つの大画面にわたる不思議な空間へ吸い込まれていくようです。

しかし近くで見ると、とても平面的。それは、インクジェットプリントの質感です。水彩色鉛筆などで手描きしたものをスキャンし、CGをつかってコンピュータ上で再構成し生み出された本作。再構成の過程で偶然現れる色や形をつかまえていくと、最初に自分の身体で描き出したものとは異なった作



「宙」19-04

2019年、水彩、CG、インクジェット
プリント、作家戚(写真撮影)木暮伸也

小松原洋生 (1967年)

品となり、より内なるイメージに近づいていくといえます。

小松原洋生は神奈川県茅ヶ崎市生まれ。モダンアート協会、CAF・N協会会員であり、桐生大学短期大学部アート・デザイン学科長として後進の育成にも携わっています。

(池田)

※企画展「桐生のアーティスト2020」は3月22日まで。出品作家は、石原彰二、金原寿浩、小林達也、小松原洋生、丸尾康弘、圓山和幸、森村均、山口晃、月曜休館。